

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
15	萩野 基行（12）	<p>1. 带状疱疹ワクチン接種への助成について</p> <p>带状疱疹とは、罹患すると10日間ほど刺すような痛みがあり、これに続き、神経に沿って帯状に赤い発疹と特徴的な水疱が出現するのが特徴で、皮膚と神経の両方でウイルスが増殖して炎症が起こっているため、皮膚の症状だけではなく、夜眠れないほどの強い痛みを伴います。</p> <p>発症しやすい年齢は50代から70代までが特に多く、日本では、成人の約9割がこのウイルスを保有し、80歳までに3分の1の人が带状疱疹にかかるといわれております。また、带状疱疹の発疹が治った後でも、ウイルスの攻撃によって神経に傷が残り、痛みだけが長期間残る带状疱疹後神経痛（PHN）という合併症が高齢の方や、重症であった方に起こりやすいとのことであります。</p> <p>そこで、带状疱疹の発症を予防するためのワクチンが10年ほど前に開発されており、発症を完全に防ぐものではありませんが、発症しても軽症、合併症の予防にもつながるとされています。</p> <p>そこで、高齢化が進んでいる今般、以下お伺いします。</p> <p>(1) これまで、鈴木幸司議員、高橋正典議員、そして私が一般質問で取り上げてきましたが、いずれも「国の検討状況を注視する」とのことでした。現在の国の状況について、どの程度把握されておりますでしょうか。</p> <p>(2) 国の状況に対し、現在、本市はどのように考えているでしょうか。</p> <p>(3) 市民の皆様から、ワクチン接種への補助の要望が非常に多く、高齢化も重なり、带状疱疹に対し、多くの市民が不安を抱いています。安心して暮らせる富士市としてワクチン接種への補助について再度伺います。</p> <p>2. 感震ブレーカー設置の推進について</p> <p>平成7年に発災した阪神淡路大震災、平成23年の東日本大震災における出火の半数以上は電気火災でした。そして本年1月1日に発生した能登半島地震では約240棟が消失し、焼失面積が約4万9000平方メートルにも及んだ輪島市の大規模火災も、総務省消防庁より、屋内電気配線が地震の影響で傷つくなどして発生した電気に起因した火災の可能性が考えられると発表されております。</p> <p>電気火災の対策には、地震発生時に設定値以上の揺れを感知した際、自動で電気を遮断する感震ブレーカーの設置が効果的であり、内閣府、消防庁、経済産業省からも地震による電気火災対策には「感震ブレーカーが効果的」と啓発しております。</p> <p>そこで、以下お伺いします。</p> <p>(1) 平成28年6月定例会の一般質問で高橋議員、平成30年6月定例会で私より感震ブレーカーの設置への補助について提案いたしました。その中で、当局より「本市における地</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
15	萩野 基行（12）	<p>震防災対策事業につきましては、建物の耐震化の促進がより優先度が高いと考えており、感震ブレーカー設置に対する補助制度の創設は考えてない」との回答でありました。</p> <p>住宅の耐震化につきましては、プロジェクト、TOUKAI-0で強力に進められておりますが、現在の住宅耐震化の状況はいかがか伺います。</p> <p>(2) 感震ブレーカー設置の推進は、本市におきましてもウェブサイトやイベント等で普及に努めていただいておりますが、南海トラフ巨大地震がいつ起きてもおかしくない中、電気火災対策は急務と捉え、感震ブレーカー設置に対して補助し、普及を加速化してはいかがでしょうか。</p>	市長 及び 担当部長